

令和7年度 第1回地域連携推進会議 議事録

1. 開催概要

本会議は、医療法人報徳会が運営するグループホームと地域社会との連携を深め、入所者が地域の一員として安心して生活できる環境を構築するための重要な一歩として開催された。以下に会議の基本情報を示すものである。

- **会議名:** 令和7年度 地域連携推進会議(第1回)
- **日時:** 令和7年1月29日(木) 14時～15時30分
- **場所:** 医療法人報徳会宇都宮病院 本館3階 会議室
- **司会進行:** 同法人総合支援課 課長

2. 出席者

本会議には、グループホームの職員、利用者とそのご家族、自治会をはじめとする地域関係者、そして日頃から連携する外部施設や相談支援事業者など、多様な背景を持つ関係者にご参加いただいた。この多角的な視点からの意見交換は、今後の連携を具体化する上で極めて有意義なものとなった。

出席者

- ・ グループホームみなみ B
施設長・サービス管理責任者・看護師・世話人等 5名
- ・ グループホームみなみ C
サービス管理責任者・看護師・世話人等 3名
- ・ 在籍入所者(+親族) 2名(+2名)
- ・ 同法人関係者
医療機関総合支援課 (発起および企画協力・司会)
- ・ 連携機関
相談支援事業所・就労継続支援事業所・社会福祉法人
- ・ 該当地区自治会等関係者 2名

3. 議事

会議は、施設の基本情報の共有から始まり、地域活動の紹介をきっかけに具体的な連携策の模索へと発展させるべく、最終的には災害時等の共通課題である事業継続計画(BCP)についても議論され、相互理解を深めると同時に、今後の協働に向けた具体的な道筋が示される建設的な場となった。

3.1 開会及び会議の目的説明

1. **法的・制度的背景:** 本会議は、国の障害福祉サービス制度に基づき、グループホームが地域社会との連携を促進するために年1回以上の開催が義務付けられている公式な場であること。
2. **地域との連携促進:** グループホーム入所者が地域において良好な関係の中で生活を送れるよう、地域住民や関係機関との相互理解を深めることを目的とすること。
3. **情報公開と透明性の確保:** 年1回以上の施設見学会の実施も義務付けられており、運営の透明性を高め、地域に開かれた施設を目指す取り組みの一環であること。
4. **第一歩としての位置づけ:** 第1回目の開催であり、今後の継続的な協力関係を築くための重要な出発点としたいとの意向が示された。

3.2 議題1: グループホームの概要説明

- **グループホームの定義**
 - ① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に基づき、障害のある人が地域の中で安心して暮らすための「住まいの場」として、生活支援を提供する施設である。
- **提供される主要サービス**
 - ① **日常生活サポート:** 食事、洗濯、掃除、金銭管理、服薬管理など、個々の必要に応じた援助や助言を行う。
 - ② **健康管理:** バイタル測定や体調確認を通じ、リズムの良い生活を支援し、必要に応じて医療機関と連携する。
 - ③ **相談支援:** 生活上の困り事や不安、人間関係の悩みなどについて相談に応じ、精神的なサポートを行う。
 - ④ **個別支援計画の作成:** 入所者一人ひとりの希望や目標に基づき、専門的な支援計画を策定し、定期的に見直しを行う。
 - ⑤ **自立支援:** 自立した生活を希望する入所者に対し、洗濯や買い物など、ステップアップのための支援を行う。
 - ⑥ **安全確保:** 緊急時対応体制を整備し、24時間安心して生活できる環境を提供する。
 - ⑦ **権利擁護:** 障害者虐待防止法に基づき、利用者の尊厳と権利を守るための取り組みを徹底する。
 - ⑧ **地域との繋がりづくり:** 地域イベントへの参加や住民との交流を通じて、利用者が地域社会の一員として関係性を築けるよう支援する。
- **グループホームの種類**
 - ① みなみB・みなみCは「介護サービス包括型グループホーム」に分類される。これは、職員が施設に常駐し、食事や入浴、排泄等の介護を含め、生活全般にわたる手厚い支援を一体的に提供する形態である。

- **利用者の費用負担**
 - ① 基本的な費用として家賃、食費、光熱水費、日用品費等を利用者が負担する。
 - ② これに加え、所得に応じてサービス利用料の1割を上限とする利用者負担額が発生する場合がある（生活保護受給者は負担なし）。
 - ③ 家賃については、自治体から月額1万円の補助制度が適用される。
- **職員の役割**
 - ① **管理者:** 運営全般の責任者として、職員管理や利用申し込みの調整等を行う。
 - ② **サービス管理責任者:** 利用者一人ひとりの個別支援計画を作成・評価し、他の職員への技術指導も担う中心的役割。
 - ③ **世話人:** 食事の提供や生活上の相談対応など、必要に応じた支援を行う。
 - ④ **生活支援員:** 世話人と連携し、入浴や排泄などの身体介護を含む直接的な援助を行う。

3.3 議題2: 各グループホームの運営状況報告と質疑応答

続いて、グループホームみなみBとCの具体的な運営状況がそれぞれ報告された。両施設の報告を通じて、対象とする利用者の特性に応じた支援内容や生活環境の違いが明確に示され、参加者の理解が深まったと思われる。

3.3.1 グループホームみなみBの状況報告

- **利用者状況**
 - ① 定員54名に対し、現在47名が在籍（令和7年12月31日時点）。
 - ② 利用者の主な疾患は、**統合失調症が約6割**を占め、次いで器質性精神障害が2割強となっている。
- **支援の概要**
 - ① 規則正しい生活リズムを重視し、決まった時間に起床・食事・活動する日課を基本としている。
 - ② 健康管理として、毎日のバイタル測定、服薬支援、ラジオ体操や嚙下体操を実施。
 - ③ 食事は栄養指導に基づいて調理された食事を提供し、入浴は週2回、個々に合わせて洗身洗髪および衣類着脱の全介助または一部介助を行っている。
 - ④ 清潔な環境を保つため、共有スペースの清掃や週1回のリネン交換を徹底している。
- **生活の質向上への取り組み**
 - ① **日々の楽しみ:** ホールでのカラオケやDVD鑑賞、天気の良い日の散歩など、レクリエーションの機会を設けている。
 - ② **買い物支援:** 週に1回、入所者の希望を聞いて職員がおやつを代理購入するほか、自立度の高い入所者は職員同行で一緒に買い物に行っている。

- ③ **季節行事:** 年4回（お花見、夏祭り、運動会、クリスマス）の大きな行事や、誕生日会、その他イベントを企画し、生活に彩りを加えている。

3.3.2 みなみBに関する質疑応答

報告後、以下の質疑応答が行われた。

- **質問:** 疾患名について詳しく知りたい。
回答: 統合失調症は意欲低下が主症状であり、幻覚や妄想は病状が悪い時に現れる。器質性精神障害は、脳梗塞やアルコール等の影響で脳自体がダメージを受け、精神症状が現れるものであると説明。
- **質問:** 入所者の費用負担は具体的にどのくらいか。
回答: 家賃は補助適用後で月5千円～1万円程度、食費が月4万円近くかかる。これに光熱水費や日用品費が加わる。
- **質問:** 介護のレベルはどの程度か。老人ホームのような身体介護も行うのか。
回答: 排泄介助なども含め、必要な身体介護は提供している。入所者には高齢者や車イスの方もおり、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。

3.3.3 グループホームみなみCの状況報告

報告では特にみなみBとの違いが以下の3点で示された。

- **入所者の特性:** 障害支援区分が4～6といった、より支援の必要度が高い方が中心である。
- **支援の密度:** 朝の起床から就寝まで、食事、入浴、移乗など生活のほぼ全ての場面で手厚い身体介護を必要とする方が多い。
- **対象者:** 男性専用のグループホームである。

3.3.4 みなみCに関する質疑応答

- みなみCの入所者のうち、身体的な介助が特に必要な方は、同一建物内にある日中活動の場である生活介護事業所と連携している。
- 特に、自力での入浴が困難な方については、生活介護事業所に設置されている**機械浴**を利用することで、安全かつ快適な入浴支援を提供している。

3.4 議題3: グループホームみなみB・C共通の取り組みと質疑応答

両施設で行われている具体的な支援は、共通のケア哲学に根差したものであることが説明された。支援の根幹には、以下の「3つの柱」があると述べられた。

1. **入所者の主体性と意思の尊重** 支援の主役は常にご本人であることを忘れず、レクリエーションの選択や食事のペースなど、日々の生活の中で自ら選択・決定できる場面を大切にしている。一方的な介助ではなく、「～しましょうか」といった丁寧な声かけを徹底している。

2. **心身の健康を支えるケア** 穏やかな生活の基盤である心身の健康を守るため、毎日のバイタル測定や水分補給、口腔ケア、栄養バランスの取れた食事の提供など、日々の細やかなケアの積み重ねを重視している。
3. **24 時間体制の安心と安全** 入所者が「いつでも見守られている」という安心感の中で過ごせるよう、夜間帯も含めた 24 時間体制で支援を提供。深夜の定期的な巡回や、身体的・精神的負担の少ない安全を最優先した介助を徹底している。

この議題に関する質疑応答では、意思表示が困難な入所者への対応方法について質問が出された。職員からは「ご本人の意思疎通が難しい場合は、ご家族の意向を伺ったり、日々の様子から職員が専門的な視点で必要な支援を見立てたりすることで、個別支援計画に反映させている」との回答があった。

また、入所者本人や家族からは、職員との良好な関係性を示す声が寄せられた。

- **利用者:** 「職員とはコミュニケーションが取りやすく、自己尊重をしてもらっていると感じる。」
- **利用者:** 「夜中に他の入所者を起こしてしまい申し訳なく思う気持ちを、スタッフが親身に聞いてくれる。」
- **利用者家族:** 「弟が穏やかに過ごせているのは、職員の皆様がうまく支援を回してくれているおかげ。本当にありがたい。」

3.5 議題 4: 地域自治会の活動紹介と意見交換

この議題は、情報共有の段階から具体的な連携策を模索する協働の段階へと会議を移行させる重要な転換点となった。地域活動の紹介をきっかけに、双方の連携への意欲と、それを阻んできた情報共有の課題が明確に浮き彫りになった。

3.5.1 自治会の活動紹介

自治会が主体となって行っている主な年間活動について、以下の紹介があった。

- 敬老会（敬老式典）
- 陽南ふれあい祭り
- 福祉バザー（売上の一部を小学校の図書購入費として寄付）
- 防災訓練
- 交通安全立哨活動
- 地域環境点検パトロール
- 研修旅行

3.5.2 意見交換

自治会活動の紹介を受け、施設と地域の連携の可能性について活発な意見交換が行われ、主要なテーマとして以下の提案がなされた。

1. **イベントへの相互参加** 施設側から「ふれあい祭り」などの地域イベントに入所者と共に参加したいとの希望が表明された。地域側もこれを歓迎し、健康相談ブースの設置や農作物の販売など、具体的な協力のアイデアが提案された。
2. **情報共有の課題と改善** 地域住民からは「施設の活動内容をこれまで全く知らなかった」、施設側からは「地域のイベント情報をうまく収集できていなかった」という声上がり、**双方の情報不足**が連携の障壁の一因となっていたことが明らかにされた。今後は、より密な情報共有を行う必要性が共有された。
3. **地域における見守り体制** 利用者の外出時のサポートについて議論された。自治会から**実際に路上で戸惑っていた方(入所者等)への声掛け、施設に連絡した協力事例**が共有されたことは、地域に既に存在するインフォーマルな支援の可能性を証明する重要なケースとなった。この議論を通じて、こうした善意をより確実な支援に繋げるため、緊急時の連絡体制を整備・共有していく必要性が認識された。

3.6 議題5: 事業継続計画 (BCP) について

施設のリスク管理体制として、大規模な災害や感染症の発生に備える事業継続計画 (BCP) の概要が説明された。この議題は、施設と地域が共有する脆弱性を再確認し、将来的な協働の必要性を浮き彫りにした。

- **感染症 BCP:** 新型コロナウイルスの経験を基に策定。利用者の安全確保を最優先とし、感染区域と非感染区域を分ける「ゾーニング」の徹底や、保健所等との連携体制を定めている。職員の過重労働やメンタルヘルスへのケアも盛り込んでいる。
- **自然災害 BCP:** 地震や水害を想定。インフラ停止時の対応、備蓄品の確保、避難経路の確認などを計画。特に、介護が必要な入所者の安全な避難を最優先課題としている。

特に、災害時に特別な配慮を要する人々を受け入れる「福祉避難所」の概念が共有されたことは、多くの参加者にとって新たな視点となった。これは施設単独では対応困難な課題であり、地域の指定福祉避難所に関する情報を自治会と共有し、有事の際に連携できる体制を整えていくことが、今後の重要な協働分野として確認された。

3.7 閉会及び総括

閉会にあたり、各出席者から感想が述べられた。多くの出席者から、本会議を通じて施設と地域の相互理解が飛躍的に深まったこと、そして今後の具体的な連携に対する強い期待感が表明された。

特に、「これまで中身が全く分からなかったが、今日の話で初めて施設の役割や職員の努力を知ることができた」「地域の活動にぜひ参加してほしい」「お互いの顔が見えたことで、何かあった時に協力しやすくなる」といった前向きな意見が多数共有され、会議は極めてポジティブな雰囲気の中で締めくくられた。

4. 決定事項及びアクションプラン

本会議での議論を踏まえ、以下の事項が決定され、今後の具体的なアクションプランが確認された。

1. 決定事項

- 次回の地域連携活動として、**施設見学会を実施する。**

2. アクションプラン

項目	担当	期限
施設見学会の開催準備と案内	グループホームみなみ B・C	見学会開催前まで
地域イベント（ふれあい祭り等）の情報を施設へ提供	地域自治会	イベント開催の都度、 随時
地域の福祉避難所に関する情報の相互共有	グループホームみなみ B・C 地域自治会	次回会議まで
施設側から地域活動への参加に関する具体的な提案	グループホームみなみ B・C	随時

5. 特記事項

- 次回の**施設見学会**の日程について、以下の通り暫定的に合意された。
 - **日時:** 令和8年3月26日 午後2時より
 - **場所:** グループホームみなみ B・C
 - ※正式な案内は後日、施設側より関係者へ送付予定。